

資料8 第5回佐賀県立高等学校生徒減少期対策審議会 概要

日 時：平成24年5月11日（金）15時～17時20分

場 所：アバンセ 第3研修室（佐賀市天神三丁目2-11）

参加者：委員（代理を含む）（17名）、事務局（10名）

会 順：（1） 開会（新委員委嘱及び紹介）

（2） 教育委員会挨拶

（3） 会長挨拶

（4） 議事

① 専門学科、総合学科の在り方（活性化方策）について

・ キャリア教育

・ 本県の専門学科、総合学科の在り方（活性化方策）

② その他

（5） その他

（6） 閉会

〔会議の概要〕

1 開会

2 教育委員会挨拶

3 会長挨拶

4 議事

（1） 専門学科、総合学科の在り方（活性化方策）について

① キャリア教育

② 本県の専門学科、総合学科の在り方（活性化方策）

（2） その他

5 その他

6 閉会

※ 時間の都合により、家庭科及び総合学科についての審議は次回に持ち越すこととなった。

〔主な質問、意見等〕（☆は会長、○は委員、◆は事務局）

※ 「普通科の在り方」より「専門学科、総合学科の在り方」を先に審議する理由について

☆ これまでの「審議の全体計画」においては、第5回審議会においては普通科高校及び定時制・通信制の活性化方策を、第6回審議会においては専門学科・総合学科高校の活性化方策を審議することとしていたが、

普通科高校の活性化方策については、通学区域（学区）のあり方を含めて議論する必要があること、そのためには、第4回審議会において依頼のあった全国の通学区域の状況等について整理する必要があることから、事務局と協議して、第5回・第6回の審議内容の順序を変更し、第5回審議会においては、専門学科・総合学科高校の活性化方策に係る審議を行うこととした。

○ （委員了承）

(1) 専門学科、総合学科の在り方（活性化方策）について

① キャリア教育と本県の専門学科、総合学科の現状と課題について

☆ キャリア教育と職業教育の違いについて事務局より説明してほしい。

◆ 職業教育は一定または特定の職業に従事するために必要な知識や技能などを育成するもので、キャリア教育はどんな職業に就いても対応できる力を育成するためのものである。

○ 本県の県立高校卒業生の状況はどうなっているのか、事務局から報告してほしい。

◆ 全国と比べて、普通科高校卒業者は進学率はほぼ同じで特に4年制大学進学者が多い。対して、専門高校は就職率が高いということで、本来の役割を果たしていると考えている。

☆ 専門高校卒業後、就職した生徒について、学科と職業の関連性の状況はどうなっているのか。

◆ 全国の状況と同様、本県でも工業科以外は、専門学科と職業の関連性は弱くなっている。

○ 高校教育におけるキャリア教育でのウエイトはどのくらいか。基準はあるのか。

◆ 高等学校においては、主に総合的な学習の時間を使って行われているが、すべての授業を通じて、各教科横断的に取り組むことになっており、時間数などが明示されているわけではない。

② 商業科の在り方（活性化方策）について

☆ まず商業に関係の深い委員から意見を聞きたい。

○ 本日委員は欠席だが、事前に打ち合わせをしてきたので、その内容を

伝える。

商業科についての議論であるが、企業からの意見としては、工業系について高校卒業後2年間、さらに高度な専門性を身に付ける高等教育機関の新設を望む強い声がある。

現状としては、商業系高校卒業者へのニーズは工業系卒業に対するニーズよりも低い。事務職を希望する者は多いが、採用は少ないという現状があり、製造業に求人ニーズが多い。

高校再編に関しては、1つの高校に、普通コース、工業コース、農業コース、福祉コース等を設定できる総合学科的な学校へ再編してはどうかという意見だ。入学後、進路変更ができる方が望ましいと考える。

なお、佐賀県ではグローバル人材の育成ということで力を入れているが、現状としては、基本的な挨拶や仕事への意欲、日本語によるコミュニケーション力や道徳心などを備えている人材を企業は求めており、グローバル人材の育成については、入社後、それぞれの企業がニーズに応じて育成しているということが現状である。

- 他の学科に比べて、商業科は高校卒業後、進学する生徒が多い理由を事務局はどう考えているのか。
- ◆ ICTの普及により、一定の能力があれば簿記の資格などがなくても勤まるようになった。専門性を高め、企業ニーズに対応する資格や能力を身に付けるために進学する生徒が増えていると考えている。

- 商業の専門性を生かすためにはどのような方法があるだろうか。
- ◆ 資料にあるように、現場からは「高度な資格取得」や「商業のスペシャリストの育成」が必要との意見が挙げられている。

- 学美舎の取組によってコミュニケーション能力が高まるという報告だが、それを裏付けるデータはあるのか。
- ◆ 高校教育改革プロジェクト会議の部会委員の発言である。報告によると、学美舎に取り組んだ生徒が就職で良い成果を上げているということだった。

- インターンシップは長期で行う方が望ましい。商業科の活性化方策につながると思う。
- ◆ 受け入れ企業の関係もあり、現在は長期間のインターンシップは難しい状況である。

- 活性化方策をどう考えればいいのかイメージがわからない。
- ☆ 活性化方策には基本的には大きく 4 つの要件があるのではないかと思っている。
 - ・ 教育活動の基盤である学校規模の確保
 - ・ 教育内容の充実
 - ・ (専門高校の場合は)社会の変化に応じた新しい産業に対応できるような教育
 - ・ 学校と家庭と地域社会の連携による教育を支える仕組みこれらを基本として、商業科の学美舎のように、それを補完するようなものが必要だと思う。
委員から幅広い意見を聞き、その意見に基づいて、活性化方策案をまとめていきたい。

③ 農業科の在り方(活性化方策)について

- ☆ まず農業に関係の深い委員から意見を聞きたい。
- 40、50 年前と違い、農業をするための農業高校という概念は捨ててよい。実習の効果もあるだろうが、農業高校卒業者は離職率が低く、勤務態度も良好ということで、企業に対し印象がいい。
農業高校へ進学する目的が、農家出身だとか将来農業をするとかいうことでなく、学校で農業技術を学び、実習を経験することによって、卒業後に志望どおり就職するとか、進学するためというようになるといい。それができるような農業高校を目指すことが活性化方策へとつながると考える。
また、農業高校の取組を中学校にもPRして、農業高校についての新しいイメージを浸透させたい。
- ☆ 農業の多面的機能を生かして行う農業教育は、幅広い人材育成に有効である。生き物を扱うので、責任感も身につく。
- 農業高校で農業行政で活躍できるような人材の育成をし、地産地消の推進などに携わってほしい。
- 農業の六次産業化に向けて、商業科の学美舎のようなものをつくったり、工業科や商業科との連携に取り組んだりしてはどうか。
- 佐賀県の農業高校には、歴史的なものも含めてそれぞれ特色がある。

拠点校を中心としてネットワークを作り、他の農業科設置校の特色ある部分を特化させ、それを伸ばしていけば、生徒たちに自信を持たせることもできる。

- ☆ 拠点校は面白いアイデアだ。行政サイドとしてはどうか。佐賀県の農業高校はそれぞれ特色がある。拠点校を決めて、ネットワークをつくってはどうか。
- ◆ 拠点校について計画があるわけではないが、ありがたい意見をいただいたと思う。

④ 工業科の在り方(活性化方策)について

- ☆ まず工業に関係の深い委員から意見を聞きたい。
- 全国で高専や県立の技術短大がないのが、滋賀、山梨、佐賀の3県と聞いている。

佐賀の企業は、長崎県、福岡県の下請け企業と、中小企業でもきらりと光る「ものづくり」を行っている、いわゆるメーカーがある。ニッチの分野だが、日本一の企業もある。現在は、ものづくりを行っている企業にとっては大変な状況である。グローバル化にもまれて、もう20年以上のデフレの状態が続いており、受注コストは下がりっぱなしである。そういうなかで、生産性や技術を高めて切り抜けている。それは日本の生産技術が非常に高いことの現れである。

そういう中で工業高校卒業生を採るとき、企業としてはどうしても即戦力を望みたい。だから、工業高校の3年間に加えて、専攻科で専門の知識や技術を身に付けた人材育成をしてもらえるとありがたい。また、佐賀には多久に産業技術学院があるので、工業高校との連携も考えられないか。

佐賀大学と連携して「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」を設立し、佐賀県の工学系人材を高度化し、グローバル化することにより佐賀地域の工業会の活性化を目指しているが、同じことは高校対象でもできると思った。そのためには、高校3年間に加えて、1年ないし2年、分野を絞って専門教育を行う専攻科のような高等教育機関の設置が望ましい。

- ☆ 工業に関するグローバル人材の育成について県はどう考えているのか。
- ◆ 施策(総合計画)として、海外留学(1年間留学生目標50人)や工業関係の海外派遣団なども計画している。企業が求めるグローバル人材を育成するための、そういう研修に参加した者を、企業で採用してもらえ

るよう取組を進めていきたい。

⑤ その他総合的な意見

○ 高校卒業後地元に残る生徒や、大学に進学しても佐賀県に戻ってリーダーになれる生徒を育ててほしい。専門高校の頑張りにも期待したい。

○ 農業高校の特色なども、今まで知らなかったなので、本当に勉強になる。他の保護者にももっと知ってほしい。中学校で行われる高等学校説明会については私立高校に負けている。県立の特色がなかなか伝わってこない。県立高校の先生の思いや特色をもっと伝えてほしい。

○ キャリア教育は一朝一夕では身につかない。生まれたときからずっと続いていくもので、大人がしっかりしないといけない。

○ 中学生が一番行きたい高校は9月の予備調査を見ればわかる。それも参考にして、再編計画に反映してほしい。

☆ 予定では家庭科と総合学科についても議論することとしていたが、会場の時間の都合もあるため、今回はここまでにしたい。続きは次回の審議会に持ち越す。

○ (委員了承)

4 その他
なし

5 閉会